

『戻橋 (もどり橋)』

千野町から流れ出て、徳田と矢田郷の境を流れ、国道一五九号線を横切る、小さな川がある。この小川にかけられた一つの橋を、「戻橋 (もどり橋)」と呼んでいる。



上杉謙信が、城山の畠山氏を攻めた時、城山の城は、城塞堅固で、上杉謙信は、容易に、攻め落とすことができなかった。何か方法がないか考えた末、城山の水源を絶って、戦わずして降伏させようとした。

ところが、数日を経た後になっても、いっこうに、城山では、水が切れた様子がなく、城山には、白水が滝のごとく流れていた。

「これでは、いつまでたっても、だめだ。」

「一度、越後に帰ろう。」

と、軍を、この橋までかえし、ふと、城山を見上げました。

「殿、白の様子が変です。」

「何事だ。」

と、城の方を振り返ると、今まで、白水が流れていると思っていたところに、無数の鳥が飛び集まり、散る様子が見えました。

「そうか、水が流れていると思ったのは、米だったのか。」

そうだったのです。畠山氏が、苦肉の策として、白米を滝のごとく流し、敵を欺いていたのです。

上杉謙信は、再び、この地 (橋) から、軍を引き返し、畠山氏を滅ぼしたといわれます。その後、この橋を「戻橋」と、呼ぶようになったといえます。

また、謙信が、城山を攻めきれず、軍を、この橋まで、いったん戻したため、「戻橋」という説もあります。

(千野町 伝承)